

402 中央大学記事（新学年の始業・新学年の状況・創立三十年記念事業）

年記念事業

〔「法学新報」第25巻9（290）号 大正4年10月5日〕

○中央大学記事

○新学年の始業 去月十三日午後二時大講堂に於て始業式を挙

行し奥田学長は学問の心得に付て一場の訓辞あり次に岡田（実齋）講師は英語学習に付ての心得を次に岡野理事は学生の心得と中央大学の教育方針に付き一時間余に渉り懇篤に説述せられ最後に伊藤理事登壇式の終了を宣し別席に於て茶菓の饗応ありて退散したり

○新学年の状況 去月十四日授業開始以来法学士中西清一氏は法科大学部に於てピットマン氏の会社法を、法学士笠間杲雄氏は経済科大学部に於てロウソン氏のエヴオリユジョン、オブ、モダンジャーマニーを担当開講せらる

新入生は例に依り頗る多く前年より著しく増加し殊に法科初年級は昼夜二組と為りたるに拘はらす尚ほ二十三号教室に溢るる如き有様にして孰れも元氣旺盛なり

○創立三十年記念事業 来る十二月を以て挙行すべき記念式に付ては著著其準備を整へつつあり維持基金募集に付き議決公表したる旨趣並に維持基金規則左の如し

中央大学維持基金募集の旨趣

我中央大学は明治十八年創立以来時運に応して規模を拡張し設備を整頓し法律科経済科商科の學術を教授し春秋方に三十年業を卒ふる者大凡六千人広く社会の各方面に立ち其学ふ所を以て公私の事に従ひ国家民人に貢献すること実に鮮少に非す

今や本邦の学界は駸駸として進み官学特権の制漸くにして撤せられ官私大学均等待遇の議亦既に成る私学の責務是より益重を加へんとす我中央大学は深く此趨勢に鑑み大に学科を改善し新に須要の学科を設け専任の講師を聘し百般の施設を完成して官

立大学に譲らざるの規模を樹立し学問独立の真義を發揮せんと欲す

我中央大学は茲に創立三十年を記念するに当り普く基金を江湖に求めて基礎を確立し努めて有用の材を養ひ以て聖化万分の一に報ひ奉らんと欲す惟ふに学問の弛張は国運の消長に關するや大なり庶幾くは大方の諸君子本学の微意を諒せられ其目的を達することを得しめ賜はんことを茲に謹て希望の一端を披瀝し諸君子の高情に訴ふ

大正四年九月

中央大学

中央大学維持基金規則

第一条 中央大学の設備を完成し時勢の趨向に応し其發展を図る目的を以て維持基金を募集す

第二条 維持基金払込の方法は一時払、年賦払又は月賦払とす

第三条 前条の外口数に依る寄附を受く

口数に依る寄附は一口を一年金六円と定め十年間一箇月金五拾銭の割合を以て払込むものとす

第四条 維持基金寄附者は中央大学維持会員とし其待遇は中央大学社員總會の定むる所に依る

第五条 維持基金は特別会計とし中央大学基金規定の定むる所に依り之を經理す

第六条 維持基金の經理は毎年一回之を中央大学維持会員に報告すへし

第七条 中央大学維持会員の芳名及寄附金額は記録に存し永久に其高意を記念す

(参照)

中央大学基金規程

第一条 中央大学基金は特別会計とし別途之を經理す

第二条 中央大学基金は篤志者の寄附に係る現金又は有価証券を以て其元資とす

第三条 元資は之を消費することを得ず

第四条 現金は確實なる有価証券に換ふることを得

第五条 有価証券は三菱合資会社銀行部に保護預けと為し現金は同銀行部に定期又は当座預けと為すへし

第六条 元資より生ずる利子は之を通常会計の収入に繰入るへし但し通常会計の状況に依り利子の全部又は一部を元資に繰入ることあるへし

第七条 基金会計年度は通常会計の年度に依る

第八条 基金会計の決算は中央大学理事に於て会計年度後直に之を整理し次年度最初の社員總會に提出して其承認を受くへし

第九条 前条の規定に従ひ社員總會の承認を経たるときは中央大学理事は其決算を寄附に報告すへし但し寄附者死亡の後は此限に在らず

第十条 寄附者に於て別段の意思表示あるときは本規程に拘はらず其意思表示に従ふ

第十一条 基金会計に於ては台帳を設け之に左の事項を登録すへし

一 寄附者の氏名

二 寄附の金額、有価証券なるときは其種類及券面額

三 寄附の年月日

四 寄附者に於て別段の意思表示ありたるときは其表示

五 毎会計年度の決算概要

第十二条 寄附者は何時にても基金会計の状況を調査することを得

を得

第十三条 此規程は基金財産として不動産又は動産の寄附あり

たる場合に之を準用す但し管理の方法は社員総会の決議

を経て之を定む

而して學員中右委員として奥田学長より囑託したる諸氏左の如し

稲田周之助	井上 敬吉	石原毛登馬	岩崎鉄次郎
稲木 重俊	乾 喜代八	今幡 西衛	石井 武郎
犬養駒太郎	石井 謹吾	伊藤 高義	飯田延太郎
岩田 匡彦	稲村藤太郎	伊臣 真	早川 重躬
林 頼三郎	早速 整爾	西原 晁臣	新野 伝吉
堀江専一郎	保坂栄之丞	細谷智之介	鳥居錦次郎
富田祐太郎	尾崎 周蔵	小倉 敬止	太田 団野
大場 茂馬	尾崎 利中	岡田 泰蔵	小栗盛太郎
太田 資時	小野瀬不二人	岡林 猛	岡野 涉
岡田 淳司	小野寺文哉	岡部 清彦	大橋与四郎
大塚勝二郎	渡辺勘十郎	渡辺 澄也	脇田 勇
河島 台蔵	加藤万四郎	笠原文太郎	川久保源治
亀山 要	川島 仟司	河野 秀男	加瀬 禧逸

鎌田芳太郎	加藤 儀作	川手 忠義	横田千之助
横田 民造	田中 隆三	田中 文蔵	武田 明
高崎 介蔵	高野 金重	高柳国次郎	田中 武雄
高窪喜八郎	武田鬼十郎	武 宗太郎	田辺 熊一
谷 忠行	高木 善行	添田 増男	中山 佐市
永井金次郎	中村 正臣	浮洲 福雄	内田 清吉
野島 勝七	窪田欽太郎	黒須竜太郎	久保 義郎
山浦 橋馬	山田 知晃	山崎林太郎	山田 三郎
山県 巖	松井政一郎	牧野 充安	松岡 高明
松浦於菟彦	松波 孚強	丸山 熊八	前田 米蔵
福田 又一	藤田虎之助	古田 良三	小松 林蔵
小林 勝民	小林 武彦	永滝 久吉	手塚彦太郎
寺島 元重	手代木佑寿	淡近 澄	新井要太郎
青木 正勝	斎藤 二郎	柵瀬軍之佐	指田 義雄
佐藤 三吾	佐野辰一郎	佐伯 彪	岸 清一
木下謙次郎	喜多 孝治	湯沢真太郎	宮地 正彰
三浦大五郎	宮沢 武七	三輪 智	宮川琴次郎
塩谷恒太郎	白鳥保五郎	城田鶴五郎	清水 有国
重信喜太郎	所沢貞太郎	品川 英一	平井長次郎
瀬下 清通	鈴木 濟美	須原 大助	杉山 虎雄
杉原文太郎(以上東京府)			
西田栄次郎	本多 源蔵	大久保健太郎	渡辺 昭
川上 清	多田常太郎	宮川弥三郎	新免 峰彦
平野吉左衛門	関根 福祿(以上京都府)		

伊藤 秀雄	池原鹿之助	大田黒英記	神戸万太郎	山田辰之進	松岡 新造	小林 砂吉	小町谷 純
田中健之助	中川銑三郎	内藤 正剛	坂本 重英	東 武	佐藤久三郎	斎藤 源次	平井彦三郎
桜田 寿	柚木 周平	三崎 正敬	白川 朋吉	(以上北海道)			
居谷 清一	(以上大阪府)			和泉 漱三	伊墻 増藏	(以上鳥取県)	
伊藤 浩蔵	小野沢竜吉	綿野 玉次	川井猪太郎	永岡 外次	(以上徳島県)		
佐藤 忠雄	鈴木銈太郎	(以上岩手県)		花崎 三省	岡田侃次郎	鯉沼平四郎	佐々木軌三
道前 彰	横田 惟好	田中 主税	佐々木 盛	(以上栃木県)			
沢辺 浩	蓑浦 清	(以上石川県)		石橋 亮	亀田外次郎	田中 清文	野村 嘉六
畑本 弥平	原田 繁蔵	西田 正孝	大森 富弥	沢田 滝哉	(以上富山県)		
岡田宇之助	貝塚徳之助	吉益 俊次	土屋忠右衛門	錦織 幹	佐柳 藤太	三田 幸司	鳥倉 竜治
上松 操	梅里 大兄	八木 信成	松村敬太郎	清古 平吉	杉山弥太郎	(以上千葉県)	
江面 島造	師岡 廉治	菅谷庄三郎	(以上茨城県)	伊藤 徳順	生田清三郎	服部 豊吉	本田 常吉
長妻篤日子	浦中友次郎	野本半三郎	山部 陽治	朴 勝彬	堀江 幸市	李 冕宇	大久保雅彦
藤村 寅一	藤田貞次郎	天野義一郎	菊池 重久	奥田勝太郎	大友 歌次	小野政太郎	和田 四郎
清水 義彰	(以上愛媛県)			依田 弘	田所 次助	田中 芳春	竹村 昌計
石塚 讓	井伊小平太	市村富之助	原 定男	田尻 隣造	生井 耕造	永沼 直方	氏野徳太郎
岡崎 善太	渡辺熊三郎	上条桂太郎	山崎今朝六	安武千代吉	松本 正寛	丸山柯太郎	満藤政太郎
丸山 七造	松木 弘	藤沼 秀	遠藤 清平	福田 源一	小菅純三郎	寺尾規矩郎	寺川 三蔵
里見恭次郎	坂本 有隣	三浦大之助	宮川小一郎	安藤 静	有賀 光豊	赤井 定義	斎藤庄三郎
(以上新潟県)				坂上 富蔵	佐々木清綱	結城 朝陽	平山 勘次
磯野 進	伊東 新吉	入山 知一	浜田和三郎	(以上朝鮮)			
本間 寛二	奥村数次郎	大川貞次郎	乙竹 仲太	池田喜太郎	岡崎熊三郎	神山 隆文	仲塚松太郎
川上定次郎	中村 耕司	永井徳太郎	長岡 熊雄	足利 義見	秋山 弥助	(以上岡山県)	
村田不二三	八木橋栄吉	山合亀次郎	山口 昇	帆足 三八	本間 則忠	白井 武松	山口弥三郎

松元辰之助 松山 正義 小島孝三郎 寺川長一郎

浅沼 猪助 森島 滝槌 (以上大分県)

高嶺 朝惟 高嶺 朝教 麓 純義 篠原四郎吉

(以上沖繩県)

大橋樹太郎 大堀 孝 鷲地 勉 兼松謙太郎

田村四郎作 楠原 保司 山本佐一郎 坂本弥一郎

(以上和歌山県)

井上八重吉 渡辺常太郎 佐藤 博愛 左右田信二郎

佐藤重次郎 鎮目恒太郎 日能脩太郎 諸留 勇助

内藤 磯吉 二見友三郎 安斎林八郎 (以上神奈川県)

小川 好知 鏡原 隼人 永田 市二 宇宿 行夫

(以上鹿児島県)

山口 正毅 福沢 作市 桐谷 円蔵 瀬戸山良敏

品治 隆 川島常三郎 吉田佐太郎 中野 岩栄

佐原寅三郎 酒見 忠勢 品川書記一 (以上香川県)

飯田 高朗 恩田熊寿郎 村津 寛 久保 要蔵

秋山 清 島田 定持 (以上関東州)

前田勝三郎 佐々木佐吉郎 (以上樺太)

花田 節 大川 清一 川瀬 周次 上内恒三郎

榎谷 政鶴 吉田 孝 高橋 忠義 副島寅三郎

土屋理喜治 筒井 清良 松本 安蔵 藤井 乾助

姉齒 松平 佐藤得太郎 重藤 幹一 瀬能 莊一

(以上台湾)

高野兵太郎 中島 信夫 天野宗太郎 (以上奈良県)

林 栄三 小山吾郎一 河野 通久 吉沢 周一

団野辰次郎 栗本 武三 神代 彦次 山本 勝助

福田 秀太 藤川悦太郎 荒井 操 浅沼彦一郎

佐伯 経臣 峰松茂三郎 須藤直方 (以上長崎県)

市川 喜一 猪股 治六 堀江 勉作 小野房則名

竹内福太郎 田多井喜源次 中川 正雄 中山武三郎

村岡禎二郎 松沢常四郎 小林与四郎 宮沢要次郎

森 彦逸 (以上長崎県)

林 千八 川上 直行 山口弁太郎 福田喜久二

江川甚一郎 森 栄 (以上熊本県)

飯塚春太郎 本間 一男 金庭 友八 内田 信保

松井 親民 小林 茂八 三沢清太郎 杉阪 実

(以上群馬県)

半沢久次郎 千葉 公賛 川原友治郎 中野 悌治

中村 尚綱 国井 常吉 松山 計雄 有泉亀二郎

佐藤 直信 三井三左衛門 (以上山形県)

池上馬之助 吉原 謙亮 芥川 兵吉 藤本直次郎

藤井 啓一 (以上山口県)

石氏 兵作 若尾 璋八 山口 二郎 山本 保

杉村芳太郎 (以上山梨県)

渡辺 鈴衛 植木 信一 藤井浜次郎 清家 齐

(以上福井県)

飯沼鬼一郎 稲本 高弥 星 与市 大島俊太郎

根本仙三郎 熊倉 虎雄 丸山辰三郎 海老原 一

新田目善次郎	桐谷 文平	三輪林之助	湊 芳藏	北島 和作 (以上岐阜県)	林 安宅	千葉 弥助	門屋 直哉	内藤諒太郎
宮崎庄太郎 (以上福島県)				村松 山寿	宇留野義彦	野沢 政平	青山幾之助	
芳賀 保彦	奥村 七郎	高木祥二郎	内田 茂七	阿部 太助	佐々木幸助	木村治朗 (以上宮城県)		
矢野 禎吉	藤田 子儀	福井 広道	藤村健一郎	野呂 鉄藏	山田 竜二	福地 由廉 (以上三重県)		
小島 尚吾	有馬 太郎	赤松 治部	木下長太郎	磯貝大二郎	吉村友次郎	関口 勘作 (以上宮城県)		
木寺 亨重 (以上福岡県)				大谷 郁彦	安達駿三郎 (以上滋賀県)			
岩本麻次郎	岩井正次郎	小野 松彦	大橋 三郎	岡崎伊勢藏	和田 世民	高柳覚太郎	高久 耕	
吉本 彦次	窪谷逸次郎	溝上与三郎	関 次郎	中田 騷郎	植田 隆	国枝 鎌三	丸山 文司	
(以上高知県)				榊原周次郎	佐藤 章次	島田宅二郎 (以上静岡県)		
岩下 知敦	伊藤 義平	大岩 勇夫	大久保与三吉	井上 敏明	永田 好峰	中島 正堅	上田 平一	
小木曾吉三郎	鹿又武三郎	菅野 鉦治	高田鋸一郎	佐野 正雄	諏訪部彦次郎 (以上島根県)	太田弥一郎	多木元三郎	
松本 安藏	二神 駿吉	浅野 三秋	安東 敏之	男庭善之助	大知新太郎	牧 鹿太郎	佐野 春五	
篠原 泰助	守永 兵治	鈴木 庄助 (以上愛知県)	工藤義太郎	成瀬名尾弥	柳谷 酉三	三橋市太郎	日山彦十郎	
飯島 莞爾	金子富次郎	梅村 大		佐藤 修	来住泰二郎			
三上 直吉 (以上青森県)				砂田 重政 (以上兵庫県)				
岡田 章	大和田三竿	川田 久信	米田甚太郎	池田 寛作	横山金太郎	高田 似壠	山科慎次郎	
武井 慶弥	多賀谷端文	永井喜久治	古沢 五郎	江藤 直作	相原文四郎	赤堀 龜雄	執行 軌正	
小出範治郎	北島伝四郎	三森栄次郎	篠原 豊磨	(以上広島県)				
(以上秋田県)								
伊藤久次郎	川島庫一郎	米原光太郎	高橋敏一郎					
柳沢 伝吉	松岡三五郎	藤岡 大英	会田亀太郎					
木戸 梅藏	樋口竹次郎 (以上埼玉県)							
稻沢庄次郎	小宮宗一郎 (以上佐賀県)							
豊島 愿	高木 国尚	遠藤 正規	佐藤郡八郎					